

漢方と鍼

平成9年5月号 (第21巻第2号通巻第87号)



シャクヤク (ポタン科)

花が美しいことから女性の立ち姿にもたとえられ、シソと同様に平安初期の典葉寮の記録に登場している。中国東北部から朝鮮半島北部へかけての原産といわれ、平安時代にすでにわが

国で栽培されていたと考えられている。秋に根を採集して日干しにしたものが芍薬で、ペオニフロリン、ペオニンなどを含まれている。漢方では筋肉のけいれん、気分の高ぶりを鎮める目的で処方に配剤される。

(昭和薬大薬用植物園園長)

(田中 孝治)

特集・アレルギー疾患

漢方治療で体質改善

漢方診療部 渡 辺 賢 治

アレルギーとは

アレルギーという言葉はオーストリアの小児科医ピルケ(一八七四〜一九二九)によって初めて提唱されました。Pilos(変わった) ego(働き)という二つの言葉から成っています。当初ピルケは良い意味で提唱したのですが、現在では主に生体に有害な過敏症を意味します。

アレルギー反応は四つの型に分類されています。このうちのI型アレルギーは即時型アレルギー、あるいはHb依存性アレルギーといわれ、いわゆるアトピー性疾患をさします。皆さんもアトピー性皮膚炎などでアトピーという言葉を知りたかと思いますが、このアトピーというのは一体何なのでしょうか？

アトピー体質とは

アトピー体質というのは外来性のアレルギーゲン(ダニ、スギなどのアレルギーを起す原因因子)に曝露されると、大量にHb抗体を産生する体質と説明されます。このHb抗体が種々のアレルギー反応を起すのです。

こうしたアトピー性疾患にはアトピー型(Hb抗体の高い)気管支喘息、アレルギー性鼻炎、花粉症を含む、アトピー性皮膚炎が含まれます。アレルギー疾患の原因

アトピー体質は遺伝することが知られています。両親がアトピー体質を持つ場合、子供がアトピー性疾患である割合は約五〇%、一方の親のみ場合は約三〇%です。しかし遺伝子がまったく同じであ

る一卵性双生児の研究でアトピー体質を単純に遺伝だけでは説明できないことが分かっています。

こうしたアトピー性疾患は全世界的に増加しています。成人の気管支喘息は四十年前には全人口の一%だったのが、三%に増加しています。スギ花粉症は一九六四年に報告されて以来急激に増加し、現在では都市部では十人に一人が花粉症であるといわれています。こうしたアレルギーの増加の背景には栄養の向上、ストレス増加、大気汚染などがあげられています。

漢方治療への期待

アトピー性疾患はその人の持っているアトピー体質そのものを背景として出現してきます。こうしたアトピー性疾患に対し、西洋医学の治療は主に症状を取り去ることに重きをおいています。しかし、症状を押さえ込んでアトピー体質そのものを変えることはできないので、ステロイド等の治療を中断するとまた症状が出てきてしまいます。

これに対して漢方治療はど

(写真・御堂義孝)

漢方はいうまでもなく古代中国にルーツをもつ伝統医学です。それを育んだ中国文明はエジプト・メソポタミア・インドと並び四大文明の一つに数えられますが、その最大の特徴は、しばしば異民族王朝の支配を蒙りながらも、文明の伝統を一時として絶やすことなく受け継いできたことにあります。

漢字はもつともよい例です。甲骨文字が始まる漢字が、変化はあるにせよ、基本的には一貫した文字体系として三五〇〇年もの間用いられ今日に至っていることは、他の文明では考えられないことです。古代中国に発生した伝統医学が東アジアにおいて発展を遂げ、漢方・中医学として現代医療の中に活用されている事実も、中国文明の悠久なる継続性を物語るものといえるでしょう。

中国最古の歴史書、司馬遷の『史記』には、大昔、夏とか殷といった王朝があったと記されていますが、二十世紀の初めまでは、学者の間では伝説上のこととして、信じら

れていませんでした。ところが甲骨文字が発見され、古代王朝の遺跡が発掘されるに至って、殷王朝が史実として存在したことが認められるようになりまし。そのきっかけとなったのは、実は柴胡加竜骨牡蛎湯などの主薬として知られる漢方薬の竜骨だったのです。

一八九九年のことです。当時学者として最高の地位にあった王懿榮（おういせい）という人が、マリアを患い悩んでいました。友人から竜骨が良く効くと聞かされた王懿榮は、下僕を薬屋に走らせ、買ってこさせました。

竜骨は古代脊椎動物の化石です。たまたま王懿榮の下で研究していた劉鉄雲という学者が、ふとそれを手に取って見たところ、骨に何やら文字のようなものが刻まれている。王懿榮も劉鉄雲も青銅器や石に記された古い文字の学問（金石学）に詳しくかったので、たいへん興味を抱き、北京中

漢方の歴史

甲骨文字の発見と漢方薬

史学研究部長

小曾戸 洋

の薬屋に人をやつて文字のある竜骨を買いあさり、研究を開始しました。

当時は考古学が進んでいませんから、竜骨は文字どおり空想上の動物の竜の骨だと信じられていました。竜の骨に人為的な文字の加工があつては都合がよくありません。そこでそれまで、掘り出す農民や薬屋はわざわざ文字を削り取つて売つていたのですが、

逆に文字のある竜骨が高い値で売れるとなると、でたらめに刻んだニセモノまでつくられるほどになりました。

この文字の彫られた竜骨は、実際はカメの甲（実は腹側の外殼）とウシの肩甲骨で、それで甲骨文字とよばれるようになりました。殷王朝の古い師が、占いの主旨を刻み、裏を火であぶり、表にできた亀裂で吉凶を占つたのです。

翌一九〇〇年、王懿榮は北

清事変の八カ国連合軍北京入城に悲憤して自殺。蒐集した甲骨文字片を引き継いだ劉鉄雲はその拓本を作り、一九〇三年『鉄雲蔵龜』という本を出版しました。学界にはじめて甲骨文字を紹介した歴史的な名著です。たちまち甲骨文字研究ブームがまき起り、いくつもの研究書が著されました。有名な学者に、のち日本に留学した羅振玉や王国維という人がいます。

文字を刻んだ竜骨はどこから発掘されるのか。そこが古代殷王朝の所在地に違いがない。骨董屋たちは発掘地が世間に知られ発掘者が殺到するのを恐れて秘密にしたのですが、そのうち、河南省安陽県にある小屯という村であることが究明され、やがて組織的な発掘によつて、巨大な殷王朝の遺跡が三〇〇〇年の歳月を越えて姿を現すことになったのです。

これらの甲骨文字は董作賓という学者によつて紀元前一

三八四〜一一二年のものと審定されました。すなわち文字によつてわれわれの知りうる最古の情報です。そこには疾病に関する数々の記載もありますが、いずれも占いの目的で刻まれたものばかりです。しかし、だからといって当時の医療が呪術に頼るのみであったとすることはできません。甲骨文字にみられる宗教的医療は、特殊な支配階級の人々に関わるものであり、自然界の動植鉱物を用いた薬物療法、あるいはさまざまな道具を利用した物理療法がなかったことを示すものではありません。文字というものもともと宗教的需要的な産物、つまり支配者たる王の権威を象徴する必要性から生まれたものです。宗教的医療よりもむしろ経験的医療のほうが先行していたとする見解が、現在では有力な考え方となっています。

医療行為を手当てというのはもつともなこと、それは人類の発生とともに起こったと言つても過言ではないでしょう。

国際植物薬会議に出席して

理事・研究部門長 山田陽城



学会場にて、中央が筆者

ベルリンでの北里研究所・ローベルトコッホ研究所合同シンポジウムの帰路、ミュンヘン大学で開催された第二回国際植物薬会議に出席しました。小規模な会議と考えていましたが、ドイツを筆頭にヨーロッパ主要国、アメリカ、

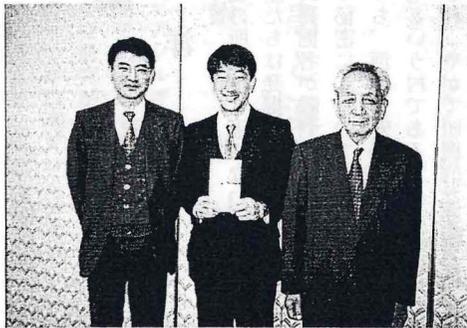
日本、インド、台湾、中国などから五〇〇名以上の研究者が参加し活発な討論が行われました。北里研・東医研からは筆者とミュンヘン大学医学部から研修中のライセンウエーバー博士が出席しました。ドイツの薬局で扱われている薬は五〇%以上が生薬のエキス等からなる植物由来の薬であり、また病院で使われる薬にも植物由来の薬がたくさんあります。このようなことからこの国際会議でも免疫系、中枢神経系、内分泌系などが関連する種々の疾患に対する生薬の薬理学的研究や臨床研究に関するシンポジウムや発表がありました。最終日には漢方薬をテーマとしたシンポジウムも企画され、筆者も日本で

用いられている漢方薬の薬効の科学的な解明に関する基礎研究の講演を行い、その質問の多さに漢方薬に対する関心の高さを感じました。ミュンヘンから二時間位のケーツングにあるドイツ人と中国人医師による中国伝統医薬専門の病院とミュンヘン大学医学部の共同で、中国伝統医薬による臨床に関する講演も行われました。このようにドイツでは生薬に関する伝統をベースとして漢方薬や中国医薬に自然と関心が広がっているようでした。

このセッションでは以前東医研薬局に留学していた薬剤師のアネリー・ネニンガーさんもミュンヘン大・薬学部大学院生として講演し大好評でした。ミュンヘン市内で漢方医院を開業しているエバーハルト医師を始めとして北里研・東医研で漢方を学んだ留学生がドイツで次々と花を開かせているのを見て、二十一世紀の地球規模の漢方を考えると北里研・東医研の役割と責任の重さを新たに痛感した会議でもありました。

渡辺賢治 医師

上原記念生命科学財団研究奨励金 財団法人漢方医学研究所研究助成 イスクラ漢方研究助成授与される



大塚名誉所長、花輪所長と喜びの渡辺医師(中央)

ら臨床研究部で研究をしております。そうした努力が実り、昨年度は数々の成果がもたらされました。

研究テーマはアトピー性皮膚炎、気管支喘息、花粉症などのアレルギー疾患に対する漢方治療の効果についての研究と、癌治療における漢方治療の効果についての研究を最新の細胞工学技術を用いて

当研究所漢方診療部の渡辺賢治医師が数々の賞および研究助成を授与されました。渡辺医師は一九九五年まで米国スタンフォード大学遺伝学教室、スタンフォードリサーチインスティテュート細胞分子生物学教室で免疫学、遺伝学の研究をしてきたキャリアーを生かし、漢方臨床のかたわ

ら効果のあることが分かっているもののようにして効くのか、その作用機序が分からないことが多々あります。こうした機序をひとつひとつ解明していくのは大変な作業ですが、大切なことなので今後の成果が期待されます。

北里東医研に留学して

H・ライセンウエーバー



諸先生方と送別会にて

たことを不思議に思われることでしょう。

実はドイツでも薬草を用いる治療には長い伝統があります。

それは、天然の材料（薬草、水、光など）を応用するいわゆる「自然療法」であり、西洋医学に基づく現代医療の中に取り入れられていきます。個人的に、私はすでに

高校生の頃から東洋文化に関心を持ち、また、現代日本の医療に伝統的な漢方が生かされていることを知っていました。

その何千年もの経験的知識に基づいた漢方に、現代医療に役立つようなメッセージがあるのかを知りたいと思いました。日本の漢方にはドイツの生薬療法と異なる二つの大きな特徴があると思います。

一つは生薬であり、一つは伝統的な診療方法であります。

ドイツと異った生薬が使われており、単味でなく、処方されたもので、その処方には固有の名前が付けられています。

次に診療方法については、ドイツの生薬療法は現代西洋医学と同様、病名による対処治療が行われています。他方漢方では、患者のすべての訴えや症状を考慮して、全体を統合的に診断しています。例えば、江戸時代に確立された腹診、つまりお腹を触ることに

よって患者の病状を把握することはその代表的なものです。統合的な診断を行うおとす漢方の姿勢は別の意味で患者と医者の信頼関係を深めて、より良い治療を実現しようとする治療法なのです。当然ドイツでも医療現場では、患者との心のふれあいは重要なもので、「ふれあい医学」といわれています。

ドイツも日本も今後ますます高齢化社会の問題を抱え、また高度経済社会に伴う環境変化による種々の病気、例えばアレルギー疾患、ストレスによる機能的疾患、慢性病などへの対応が要求されます。

現代医学が対応しきれないこのような問題に対して、漢方などの生薬療法の有効性がますます認められると共に必要になってくると思います。私は帰国後、ミュンヘン大学で北里研究所で修得した漢方医学を臨床研究に生かして、患者さんの治療に役立てて行きたいと考えます。そして、漢方医学を通じて日独交流の掛橋となりたいと思います。

外来予定表

受付時間
午前8時～11時
午後12時50分～3時30分
土曜は午後休診(第四土曜
及び日曜祭日は終日休診)

漢方

土	金	木	水	火	月	午前	午後
渡辺(賢)	花輪(予約) 村主・鈴木	鈴木 渡辺(賢)	大塚(予約)* 春山・矢数	石野・鈴木	村主・木下 渡辺(賢)	伊藤・鈴木 渡辺(賢)▼	伊藤 渡辺(賢)
	花輪(予約) 石野・伊藤	鈴木 渡辺(賢)	松田・古屋 渡辺(賢)	村主・佐藤 渡辺(賢)			

▼冷え性専門外来

鍼灸

土	金	木	水	火	月	午前	午後
石原・寺崎 春山・今泉	石原・寺崎 春山・今泉	伊藤・寺崎 石原・掛川	石原・寺崎 伊藤・寺崎	石原・寺崎 柳澤・寺崎	石原・寺崎 石原・寺崎	石原・寺崎 石原・寺崎	春山・今泉 石原・寺崎
		石原・寺崎 石原・掛川	伊藤・寺崎 石原・掛川	寺崎・石原 今泉・石原			

編集後記

花輪所長の元、新生北里東医研がスタートし二年目を迎え、本号より「漢方と鍼」も装いを改めました。今後さらには皆様のお役に立つものを作っていくつもりです。どうぞよろしくお願致します。

漢方と鍼・第87号

発行日/平成9年5月30日
発行人/花輪 壽彦
編集/北里研究所東洋医学総合
研究所・漢方と鍼編集部
代表・鈴木邦彦
東京都港区白金五―九―一
☎(0)三三四四六六一
制作/有医聖社